

2019年度 教養デザイン研究科 新規授業科目の概要(博士前期課程)

科目区分	授業科目の名称	担当教員	演習等の内容
コース必修科目 文化領域研究科目	文化理論研究演習Ⅰ (小説作品を理論的に読む)	嶋田直哉	日本近代文学作品の物語内容(ストーリー)ばかりではなく、物語構造に注目しながら作品を読み進めていきます。登場人物の気持ちといったことを漠然と推測するのではなく、作品の語られ方(ナラトロジー)や文章の特徴(文末の時制表現など)に注意を払いながら分析を進め、学生諸君に口頭発表してもらいます。分析の対象となるのは夏目漱石「坊っちゃん」、谷崎潤一郎「春琴抄」、太宰治「道化の華」、野間宏「暗い絵」など明治期から昭和戦後期までの作品群です。分析の方法は実際にこれらの作品に触れながら解説していきます。
	文化理論研究演習Ⅱ (都市と文学)	嶋田直哉	日本近代文学の作品において都市がどのように描写されているのかを前田愛『都市空間のなかの文学』(1982)などを参照しながら学生諸君による口頭発表を通じて考えます。文学作品の物語構造はもちろんのこと、実際の都市空間についての資料調査を経ることで作品の中に折り重なる様々な引用を発見することが可能になります。そこから導き出される欲望のまなざしを検証することで文学作品と都市の関係を明らかにしていきます。さらには田中康夫『なんとなく、クリスタル』(1980)から月刊誌「東京カレンダー」(2001～)なども視野に入れながら都市と欲望の表象関係をより具体的に考察します。
	文化理論研究演習Ⅲ (現代日本文化を考える)	嶋田直哉	吉見俊哉『現代文化論』(2018)を参照しながらカルチュラル・スタディーズを学び、現代日本文化の分析方法を徹底的に学びます。文学や演劇といった高尚な(芸術)はもちろんのこと、アニメーションやコスプレなどのサブカルチャーまでも視野に入れながらそれらに通底する文化のありかたを考えます。学生諸君にはテキストをまとめた口頭発表はもとより、自身の興味にもとづく日本文化について具体的に分析してもらいます。これらの作業を通じて文化を理論的に考える姿勢を身につけます。
	文化理論研究演習Ⅳ (永井荷風「墨東綺譚」を読む)	嶋田直哉	明治期から昭和戦後期まで活躍した永井荷風(1879～1959)の作品を中心に授業を進めます。荷風の代表作「墨東綺譚」(1937)を分析の対象とします。この作品を語り論(ナラトロジー)、都市論、文化研究(カルチュラル・スタディーズ)、同時代の言説分析、図像学といった様々な分析方法で読解し、学生諸君に発表してもらいます。分析方法は実際に作品に触れながら解説していきます。単に小説を楽しく読むだけではなく、具体的な分析方法を学習することで他の作家作品にも応用できる研究姿勢が身につきます。